

2015年1月クラブラン「東京パワースポット巡り」

基本データ

クラブラン実施日	2015年01月11日(日)
クラブラン名称	2015年1月クラブラン「東京パワースポット巡り」
行程	芝大神宮⇒芝東照宮⇒増上寺⇒愛宕神社⇒日枝神社 ⇒門前茶屋にて昼食⇒富岡八幡宮⇒湯島天満宮 ⇒神田神社⇒四谷にて新年会 走行約30Km
集合場所	JR浜松町駅北口 09:45 集合、10:00 出発
企画・担当	F本会長
レポート担当	O湖、F本
参加者	F本、I浦、O笠原、O湖、S原、S山、T地、T田、W邊、 新年会よりF田、Y本
参加機種	700Cロード×4機、700Cパスハンター×1機、 700Cクロスバイク×1機、 24吋中径車×1機、20吋小径車×2機
天候	快晴、微風、気温暖かし

2015年が明けて初のクラブランとなるこの日。天気は明るく晴朗にして風もなく、お日柄よろしく「走り初め」に申し分のない佳き日となりました。

暖かな日だまりとなっているラジオ放送局サテライトスタジオ前で輸行の荷を解き、組み立て作業が黙々と始まります。この日の文化放送前は休日で閑散としていました。おかげさまで余裕で組立作業ができ幸運でした。平日の日常はものすごい人だかりのする場所だそうです。

発進前のブリーフィング。本日の案内をお引き受けいただいた F 本会長により走行計画の確認がされました。そして身体を温め、走行感覚を覚醒するためストレッチを。JCA 会長代行ドクトル加藤先生のご発案による「サイクリング体操」です。



参照：JCA ホームページより「快適サイクリングのためのストレッチングレッスン」<http://www.j-cycling.org/beginner/fun/00.html>

もう11日とはいえ、正月気分の抜けやらぬ長閑な芝大神宮の参道。これより境内となるとところに一人の神官がおられます。わたしたちに向かって微笑み、優しく声をかけてくださいました。自転車でようこそいらしてくださいました。どうぞこちらに駐輪してください、ごゆっくり。

奥ゆかしく穏やかなお言葉にわたしは敬服しました。わたしも努力すれば、このように上品で優雅な言葉を身につけることができるのかしら。



快晴の芝東照宮にて

続いて芝東照宮へ。そして増上寺。本日訪れる寺社は、都心に在りつつも広大な境内を有しています。増上寺も境内が広い。固定資産税の税額はたいそう高額なのだろうなあと思いました。ところが帰宅して調べてみたら、宗教法人の境内地や境内建物は非課税なのだそうです。

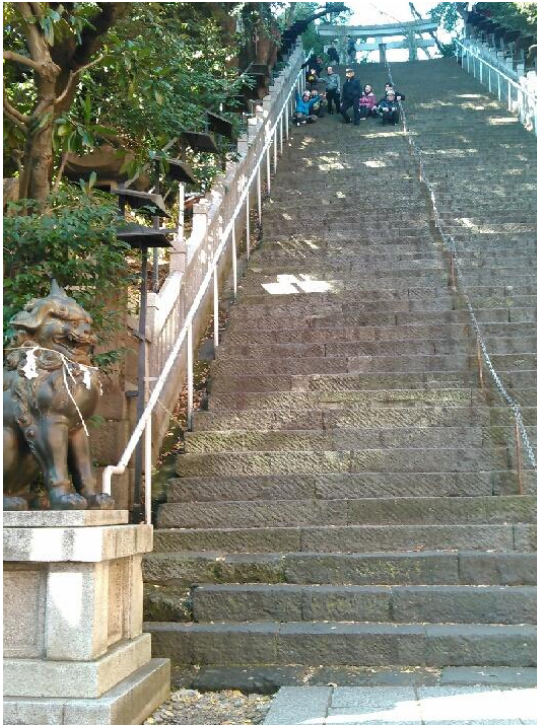


山門 下馬ノ図

YMCC 流駐輪の作法としまして、まず大径車から壁や塀に立てかけていきます。この際に最初はチェーンリングを外に向けて見えるように。つまり機体の右側を表に見せる。2 機目は機体の前後を替えて重ね、さらにその次も。言い換えればハンドルとサドルを交互に重ねていきます。

そして最外側を小径車で蓋をするように塞ぐ。このように駐輪すると、小さな空間に多数の自転車を整然と駐輪することができます。もちろん塀や壁に傷をつけないよう、慎重に丁寧にこの作業をすることです。

写真では5機並列と4機並列を縦に繋ぎ、さらに強固な構造にしました。ちなみに、最初チェーンリングの表を見せて駐輪するのは、チェンや後変速器を壁や塀と接触させないためです。



愛宕神社 出世の石段

曲垣平九郎と愛馬

引き続き愛宕神社へ。まるで梯子を昇るのかと錯覚するくらい急傾斜の石段を進みます。この石段を世間では「出世の石段（男坂）」と呼びます。

その謂われは、三代将軍家光が愛宕神社の下を通りがかったとき、見上げた石段の先に咲く梅を所望しました。このとき家光は、乗馬のまま梅を持ってまいるよう申したのです。

居並ぶ家臣がうつむくところを「曲垣平九郎（まがき へいくろう）」という名の武士が馬を操り石段を昇っていきました。平九郎は梅の枝を馬上から手折り、乗馬したまま再び石段を降り家光に献上しました。そして日本一の馬使いと称賛され名を高めました。

う～む、こりやすごい。乗馬した侍もえらいが、人を乗せて階段を上った馬はもっと偉い…。

お次は日枝神社。江戸城の内堀までわずか十町の距離に所在します。鳥居のてっぺんが山形の面白い形をした「山王（さんのう）鳥居」をくぐり、参道となっている山王橋を昇ると境内です。こちらでは現代建築風の造りをした石段に豪華なエスカレーターが併設され、足腰が弱っても参詣できるようにと親切です。愛宕神社の石段とは大違いの造営コンセプトに思わず苦笑しました。

増上寺、愛宕神社、日枝神社までは午前中に参拝し、お賽銭を供えることができました。人出も程ほどで、ゆったりと初詣ができよかったです。



愛宕神社「女坂」境内より臨む



日枝神社境内

さてこれより深川方面へ進路変更します。銀座から歌舞伎座の前を通り、築地から隅田川を渡って月島へ。そして門前仲町へと出ますと富岡八幡宮です。昼時というのにこちらはたいそう賑わっておりました。

富岡八幡の神輿はショーウインド越しに見学できます。重さ4トン半、屋根飾りの鳳凰の眼は4カラットのダイヤなど、多くの宝石を用いたとても豪華なものでした。

そしてようやく昼ごはんです。小さいながらも程良くまとまり、落ち着いた雰囲気のある寿司店で海鮮ちらしを頂戴しました。きれいに盛り付けされた正月らしい献立でした。ここ「すし成田」のご主人は、京都で懐石料理を修業されたそうです。カウンター越しに鮮やかな調理の手際を拝見することができました。夜の「おまかせコース」ならば、京風懐石を堪能できるでしょう。お店を辞すとき干支の羊の根付を頂戴し、なんとも福々しい気持ちになりました。

じつは当初計画では「門前茶屋」の深川飯をいただく予定でした。ところが富岡八幡の賑わいと同じくらいにたいそうな客入りでして。入店待ちの行列を前にしては諦めざるを得ませんでした。

食休み後は一気に江戸城の北方、城北地区へと向かいます。この区間は移動距離も長いですが、その分巡行速度も上がり気持ちがいいです。



落ち着いた雰囲気のある寿司店

以降の参詣は、湯島天満宮も神田神社もすべて参道は長蛇の列でした。人も車も大混雑、駐輪も通行の妨げとなりかねません。境内もまるで芋を洗うような超満員でして、参詣に一時間は並ぶかと思わせるただならぬ様相です。それではと、一行は遠く鳥居の脇から本殿を臨みお詣りしたとみなすことにしました。

冬の日には短いです。早や陽射しが傾いて、影が長くなってきました。これより新年会会場へ向かいます。お茶の水、水道橋、飯田橋、市ヶ谷、四谷と中央線各駅を江戸城外堀の外側から眺めつつ移動します。この道路は文字通り「外堀通り」と呼ばれています。

この日の9名になる小集団走行は、前方に5機、後方に4機の配置としました。先頭機はリーダーにして案内役です。そして後方4機の先頭がサブリーダーです。小径車や初級者は前方集団に編入します。

9機が単従陣で走行すると、交差点を横切る途中で信号機の変り目に分断されることが多いです。このようなときでも後方はあせらず、信号機の指示どおりに停車します。慌てて先行者を追いかけて無理に交差点を渡ることのないようサブリーダーが制御するしくみです。



新年会会場前

会場前にてH田さん、Y本さんと合流しました。彼らはトライアスロン練習の後に四谷まで駆けつけてくれました。YMCC会員の楽しみ方には多様性があります。各人が一日を過ごしたあと合流し、食事とお酒を戴きながら語り合う自由さが愉しいです。